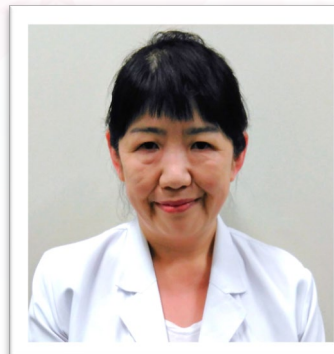


巻頭言 —退職を迎えた職員からのご挨拶—

北部病院が開院して1年が経過した2002年に血液内科医が必要との病院の判断で、私は内科の一員になりました。それまでは血液内科という単科に長く所属していましたが、北部病院の内科では多数の専門分野の内科医が協力して診療にあたっていました。現在も腎臓内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ膠原病内科、腫瘍内科、血液内科の医師が内科のメンバーです。一人の患者さんの抱えている疾患は一つとは限らず、診断・治療に際して異なる角度からのアプローチを受けることで、血液内科医として充実した医療ができたと感じています。



＜内科＞

坂下 暁子 副院長

2017年からは副院長となり、2020年からの新型コロナウイルスに対する対応に追われました。北部病院は横浜市の中核病院として中等症以上の感染患者さんの治療を担当するとともに、本来北部病院が治療してきた患者さんへの医療を継続するために、全ての職員が一丸となって頑張りました。また患者さんにも入院前のPCR検査やご家族との面会制限などにご協力頂きました。

定年退職に際して北部病院での21年間を振り返ると、共に働いた多くのスタッフや患者さん及びご家族、そして地域の医療機関の皆さんへの感謝の気持ちが溢れてきます。4月からは、特任教授として北部病院でもう少し働くことになりました。この感謝の気持ちを懷に北部病院が更に充実すべく尽力して参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



＜循環器内科＞

落合 正彦 教授

私は1984年に東京大学医学部を卒業後、諸施設で循環器内科の診療に従事してまいりましたが、2001年3月、全くご縁がなかった昭和大学にお声がけいただき、横浜市北部病院の開院に携わることになりました。センター型の診療と、当時、日本で初めての完全電子カルテシステムによる大学附属病院の立ち上げに、大きな魅力を感じたからです。

以後23年間、紆余曲折はありましたが、多くの皆様に支えられ、循環器内科は順調に発展して参りました。心より御礼申し上げます。当初私を含め4名だった医局員は大幅に増加し、2023年は冠動脈インターベンション・末梢動脈インターベンション・不整脈アブレーション・ペースメーカーなどの各種デバイス植え込み・腹部大動脈ステントグラフトを合わせ、合計1117件と、全国の大学病院でも有数の治療件数を達成することができました。

また、2024年には、カテーテルによる左心耳閉鎖術・僧帽弁形成術の施設基準も取得し、構造的な心疾患の治療も開始致します。これからは、特任教授として、引き続き循環器内科における診療を行って参ります。改めまして、さらなる御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

- P1～2. 【巻頭言】—退職を迎えた職員からのご挨拶—
- P3. 【お知らせ】ひな祭りの病院食について
がん患者サロン「きぼう」について
- P4～5. 【医学講座コーナー】花粉症について
- P6. 【患者さんからのご意見・ご要望】【編集後記】



巻頭言 ―退職を迎えた職員からのご挨拶―



＜消化器外科＞

石田 文生 教授

私は北部病院の開院翌年 2002 年に消化器センターに入職、大腸癌腹腔鏡手術を担当させていただきました。当時は大腸癌腹腔鏡手術が日本に導入されて 10 年に満たず、適応、術式が確立されつつある時期でした。「世界最高の消化器診断と治療を」という工藤進英教授の号令のもと消化器センターの総力をあげて取り組んできました。内科、外科の垣根のない消化器センターでの診療は患者様に対しても「はじめに消化器センターを受診すれば、診断から治療まで大丈夫」と安心してお任せいただけたのではないかと思います。

勤務して早や 22 年が経とうとしています。この間に腹腔鏡手術が大腸癌の標準治療となり、ロボット支援手術も消化器センターに導入され、常に最先端の治療を目指してきました。このような歩みを遂げられたのも市民のみなさま、変わらずご指導、ご支援いただいております医師会、各施設の先生方、北部病院職員のみなさま、そして支えてくださった消化器センタースタッフ一同のおかげです。

なお、私はこれからも外来診察など続けさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。このたび無事退任させていただきますことに深く感謝し、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

2011 年 3 月に、藤が丘病院から北部病院に異動になりました。異動直後に東日本大震災が発生し、北部病院でも一部の機能に影響を受ける中、入院患者さんの安全確保及び外来患者さん等帰宅困難の方々への対応を経験し、医療者として日頃からの災害対策の重要性を実感し、忘れられないスタートになりました。

北部病院では眼科・泌尿器・整形外科・呼吸器病棟で病棟管理に携わり、患者さんの看護を通じて専門チームや多職種との連携体制が整っていることを感じる日々でした。

2020 年、外来に異動した直後に新型コロナ感染症発生に対し発熱外来を開設することとなり、感染管理室の指導のもと、一般外来患者さんに影響を与えないようスタッフ一丸となって頑張り、現在に至っています。新型コロナへの対応はまだ気を緩められませんが、知識と経験の積み重ねが病院全体で生かされていることを実感しています。

北部病院での 13 年間、部署責任者として様々な出来事の際に看護部はじめ各部署・各部門の皆様のご支援やご協力を頂きながら経験と学びを積み重ねることが出来、深く感謝しております。北部病院の更なる躍進を心より応援しております。



＜外来＞

大平 久子 師長

お世話になりました!



【お知らせ】ひな祭りの病院食について

春の日差しが穏やかな季節となりました。3月3日はひな祭りです。当院も、夕食にひな祭り献立を提供させていただく予定です。

「ちらし寿司」は、見た目も華やかな縁起の良い具材が入っています。海老は長寿、れんこんは見通しが良くなるように、錦糸卵は、黄身と白身を金銀に表し豊かに暮らせるようにといった願いが込められています。

また、添えの生姜の甘酢漬けはガリと呼ばれていますが、噛んだ時に「ガリガリ」という音や、ガリガリとした食感があることなどが語源と言われています。生姜には殺菌効果の成分や、消臭作用の成分が含まれているため、食べ物が傷みにくく、食べた後に口の中をさっぱりさせる作用があるようです。

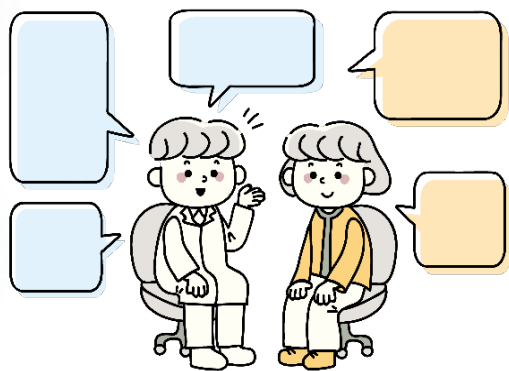
その他は、春が旬の「菜の花のお浸し」、
「みつばの清汁」「^{じぶに}治部煮」「ひなあられ」
をご用意させていただきます。

三寒四温の時節柄、お身体に気を付けてお過ごし下さい。



※写真は昨年度のものです。

【お知らせ】がん患者サロン「きぼう」



がん患者サロン「きぼう」の開催が、3月21日（木）に決定いたしました。

今月のミニレクチャーのテーマは「『人生会議』について考えてみませんか」です。もしもの時のために、あなたが望む医療やケアについて、一緒に考えてみましょう。ぜひご参加ください。

開催日時：3月21日（木）14：00～15：00（予定）

開催方法：中央棟9階会議室（オンライン参加可能）

ミニレクチャー：「人生会議」について考えてみませんか

（申込方法については、右記QRコードまたは

病院ホームページをご覧ください。）

お問い合わせ：中央棟1階100番 総合サポートセンター・

がん相談支援センター 045-949-7000（代）



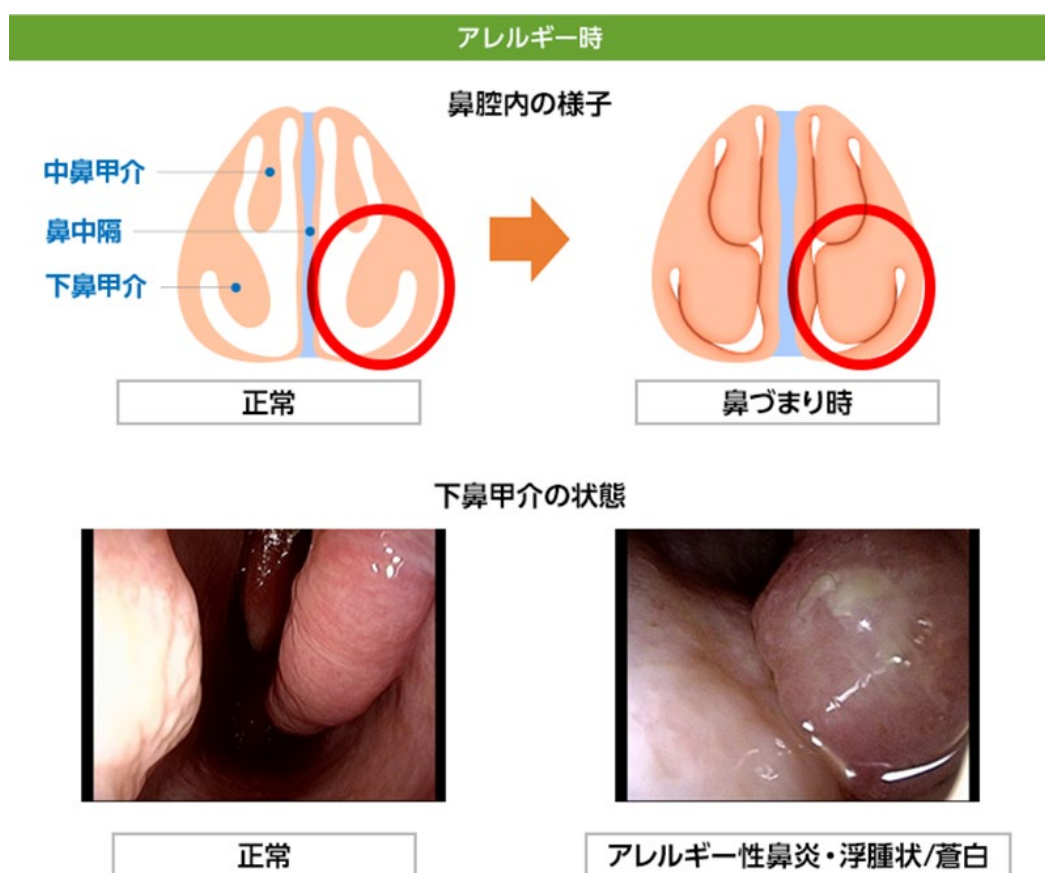
【医学講座コーナー】 花粉症について

〈耳鼻咽喉科 講師 小松崎 敏光〉

花粉症の症状について

花粉が原因で引き起こされるアレルギー反応による症状を花粉症といいます。アレルギー性鼻炎の主な症状は発作性反復性のくしゃみ、水っぽい鼻水、鼻づまりです。通年性アレルギー性鼻炎と季節性アレルギー性鼻炎に分けられ、季節性の主なものが花粉症です。花粉症の症状として、目のかゆみも多くみられます。

子供の場合は、扁桃^{へんとうひだい}肥大がないにも関わらずいびき症状がある場合は、アレルギー性鼻炎による症状の場合があります。鼻がつまると口で呼吸するため、のどの渇きや痛みなどの症状が出ます。睡眠の質が低下することで、不眠や授業中の居眠り、イライラ感、全身倦怠感や集中力の低下など、学業や成長発達に影響を及ぼす可能性もあるため注意が必要です。



さまざまな治療方法について

症状を抑えるための薬物療法としては、抗ヒスタミン薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬^{じゅようたいきっこうやく}、ケミカルメディエーター遊離抑制薬^{ゆうりよくせいやく}などの内服薬、ステロイドの鼻噴霧用薬^{はなぶんむようやく}、目のかゆみには点眼薬が使われます。症状のタイプや程度にあわせて用いる薬を調整します。最重症の方には、2019年に生物学的製剤の注射も保険適応となりました。

その他に、アレルギー性鼻炎を治す、あるいは長期的に改善させることが期待できる治療として、アレルゲン免疫療法があります。アレルゲンを定期的に体内に入れることで、免疫反応を変えていきます。ダニまたはスギによる鼻炎を対象とした皮下免疫療法と舌下免疫療法があり、3～5年の継続が必要です。

【医学講座コーナー】 花粉症について

〈耳鼻咽喉科 講師 小松崎 敏光〉

鼻づまりが強く、粘膜の腫れが著明な場合は、レーザー^{しやうしゃく}焼灼による治療の選択肢もあります。耳鼻咽喉科医とよく相談して、自分にあった治療法を見つけてもらってください。薬物や医学的処置以外にできることとして、鼻洗浄（鼻うがい）も鼻粘膜に付着したアレルゲンを洗い流すことができ、保湿により^{せんもうんどう}繊毛運動（ウイルスなどの異物を排除する働き）が保たれるため、効果が期待できます。

花粉の飛散と対策のポイントについて

日本気象協会の飛散予報によると、関東ではスギ花粉は例年並みか、例年より早いスタートで2月上旬から飛散が始まり、3月下旬まで続くことが見込まれています。ヒノキ花粉は3月下旬から4月中旬までの飛散が見込まれています。飛散量は関東甲信では例年並、前シーズン比では少ない予測となっています。1月前半は気温が高めに経過したこともあり、スギ花粉がわずかに飛んでいることが確認された地域もありました。わずかな量の花粉でも症状の出る方は、早めに対応されるのがよいでしょう。また、初夏から秋にかけてはイネ科、夏から秋口にかけてはブタクサやヨモギ（キク科）の花粉が飛散します。

一番のアレルギー対策は、アレルギーの原因を避けることです。外出の際には、マスクやメガネでしっかりと防御しましょう。くしゃみで発生する飛沫の量は咳の10倍以上であり、花粉症の対策や治療は、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染対策としても大切です。



あわせて注意した方がよい病気など

鼻水が粘っこく、黄色や緑っぽい色をしている場合は、^{ふくびくうえん}副鼻腔炎による鼻水の場合があります。細菌やウイルス、真菌（カビ）の感染によるもの、アレルギーが影響しているものがあり、原因にあわせた治療が必要です。抗生剤や気道の浄化を後押しする薬で治療しますが、3か月以上改善がみられない場合や、真菌による副鼻腔炎は手術が必要と考えられます。鼻づまりも^{びちゅうかく}鼻中隔（左右の鼻のしきり）の曲がりが強いために生じている場合や、^{び ふくびくうしゅよう}鼻副鼻腔腫瘍によって生じている場合には手術が必要になります。

その他にも、耳がこもっている感覚がある場合には、鼻粘膜の浮腫みにより耳抜き機能の不具合が生じ、^{しんしゅつせいちゅうじえん}滲出性中耳炎（中耳腔に液が溜まる）となっている場合があります。アレルギー症状は上気道（鼻や口から喉まで）と下気道（気管や気管支、肺）で関連があるため、花粉症の時期に喘息の症状が悪化するなどの影響が出る可能性があり、あわせてコントロールすることが大切です。

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善等
マイナンバーカードの機械の設置位置が、車椅子や杖を持っている人にとっても不便。 杖の場合は、立ったままできるようにしてほしい。 車椅子の場合は、設置してある椅子がすぐ動かせるようにキャスター付きのものにしてほしい。	現在、中央棟1階インフォメーションに設置の『マイナ受付機』は、車椅子や杖を使用される患者さんが座ってご利用になることを想定した位置（高さ）にしております。 キャスター付きの椅子は、転倒などのリスクがあることから導入予定はありませんので、車椅子でご利用になる際は、受付スタッフにお声がけください。速やかに椅子を移動します。 また、現在、機械の増設を検討しており、立ったまま利用できる位置にも設置できるよう進めております。この度いただきましたご意見を参考にしてまいります。 （回答部署：医事外来課）
男性スタッフが、女子トイレの掃除に入ってこようとされたので驚きました。 人手が足りないのかわかりませんが、女子トイレに男性の清掃員が入るのは良くないと思います。	ご意見ありがとうございます。 基本的に、女子トイレの清掃は女性スタッフで行っておりますが、その日の出勤状況の関係で男性スタッフが清掃する場合もございます。 その場合は、事前にお声がけをさせていただき、不在を確認した上で、『只今、男性清掃員が清掃中です。』の立て看板を出して清掃に入っております。逆に、女性スタッフが男子トイレを清掃する場合にも同様の対応を行っております。 皆様のご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。 （回答部署：管理課）

編集後記

寒い冬が終わりに近づき、春の訪れを告げる花のひとつに「ミモザ」の花があります。小さくて黄色い、丸い綿のようなお花で、3月に華麗に咲き誇ります。このミモザの花言葉はいくつかあるのですが、その中に「感謝」があります。世界でも広く愛されるこの花は、女性たちの功績を祝福し、ジェンダー平等について考える3月8日の国際女性デーの象徴とされ、折々に花を贈る風習のあるイタリアでは、男性から身近な女性へプレゼントしたり、女性同士で贈り合ったり、あるいは頑張っている自分へ贈るなどして親しまれているそうです。

今、皆様の心の中に思い浮かんだ方はどなたですか？私はいつも励ましてくれている母へ、今年はこの花を届けたいと思っています。お花と一緒に、普段恥ずかしくてなかなか言葉にできない感謝の気持ちを伝えて、心身ともに温かく春を過ごしたいですね。

（看護部 次長 福岡 絵美）



北部病院だより 第189号（2024年3月1日発行）

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。